

今週（4月13日から4月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週前半は積み最終週に入ったことで着地に向けた調達ニーズが強く、日を追う毎に無担保コールO/N加重平均レートが上昇する展開となった。新しい積み期に入った16日以降は様子見姿勢の先が見られたことで、レートは低下した。日銀当座預金残高は397兆円程度から始まり、15日に年金定時払いがあったことで、週後半は405～410兆円程度まで増加した。

無担保コールO/N物は、週初は▲0.025～▲0.01%のレンジでの出会いで始まった。積み最終日の15日は、更に調達ニーズが強まり▲0.01～▲0.003%の出会いと強めの地合いとなった。積み期間が替わった16日以降は一旦様子見姿勢が強まり、▲0.065～▲0.015%の幅広いレンジでの出会いとなり、加重平均レートは低下した。ターム物に関しては地銀業態を中心に新積み期スタートのショートターム物で▲0.01%近辺での出会いが散見された。

●レポ市場

今週のO/N GCは週を通して投資家の資金調達ニーズが見られたことで、前週と比較して概ねレートは安定していた。週半ばに積み期間が切り替わったものの、▲0.10%前後の出会いとなった。週初13日T/Nは▲0.10～▲0.07%の出会い、翌14日T/Nは一段とレート上げて▲0.08～▲0.05%の出会いとなった。15日T/Nは積み期が切り替わったことでレート水準が低下して▲0.12～▲0.10%の出会いとなり、その後は同水準の出会いを続けることとなった。

SCについては5 y 141～142、10 y 352～358、20 y 169～171にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、閑散地合いの中、横ばい圏で推移した。担保需要からか、週を通して散発的な買いが入っており、3M物が▲0.155～▲0.145%、6M物が▲0.192～▲0.180%、1Y物が▲0.170～▲0.150%で出合う展開となった。

14日に実施された短国買入オペは、前回と同額の2,500億円でもオファーされ、平均落札利回較差+0.010%、按分落札利回較差+0.002%と、在庫調整の売りからか、やや弱めの結果となった。

16日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.150%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1547%、按分落札利回▲0.1477%としっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.165～▲0.160%出会いと堅調に推移した。

17日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1367%、按分落札利回▲0.1263%と弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.140%出会いと堅調に推移した。

●CP市場

今週は、複数の業態で発行案件が多数見られ、活況なマーケットとなった。一方で、発行体と投資家の目線が合わず、引き続き減額発行が相次いだ。

週間の金額ベースでみると、5,800億円程度の償還に対して、5,500億円程度の発行となった。市場残高は、23兆円台後半で伸び悩みとなっている。緊急事態宣言が発令されたことで、発行体と投資家が共に業務削減を余儀なくされていることや、応札レートが高く、予定額を調達できない案件が見られていること等が影響した。

発行レートについては、銘柄間の格差は大きいものの、依然として高水準での推移となっている。その一方で、発行体が一定水準以上では発行を取りやめる動きや、投資家が若干目線を下げる動きも見られている。

14日にはCP等買入オペが、事前予定額より1,500億円多い、5,500億円でオファーされた。直近の市場環境を反映して、按分レートは前回の0.003%から急上昇し、0.106%となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/13（月）	19,043.40	0.000	108.26	△ 0.019	△ 0.094	3,971,300
4/14（火）	19,638.81	0.009	107.65	△ 0.010	△ 0.085	3,980,600
4/15（水）	19,550.09	0.015	107.17	△ 0.009	△ 0.119	4,052,600
4/16（木）	19,290.20	0.000	107.69	△ 0.044	△ 0.136	4,076,100
4/17（金）	19,897.26	0.010	107.93	△ 0.046	△ 0.113	4,102,600

来週（4月20日から4月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/20（月）	3月の貿易統計(財務省 8:50)				
4/21（火）		20Y 9,000億円 4/22発行			3月の米中古住宅販売
4/22（水）		交付税借入 11,000億円 5/7借入			3月の英消費者物価指数
4/23（木）	2月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	2Y 20,000億円 5/1発行			3月の米新築一戸建て販売件数
4/24（金）	3月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 3月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	TB3M 57,400億円 4/27発行	交付税借入 11,000億円 5/8借入		3月の米耐久財新規受注

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/20（月）	▲ 1,400	3,300	1,900	国債買入 CP買入 社債買入 ETF買入	▲ 300 ▲ 200	6,100 700	6,300	8,200	申告所得揚げ（5月に延期） TB3M発行▲47000償還43400 TB1Y発行▲19000償還15300 エネルギー対策借入▲8500期日8500
4/21（火）	▲ 1,000	9,000	8,000				0	8,000	
4/22（水）	▲ 2,000	▲ 6,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	20Y発行▲9000
4/23（木）	▲ 2,000	5,000	3,000				0	3,000	
4/24（金）	▲ 3,000	12,000	9,000	社債買入 国債売現先(米ドル)	900	1,500	2,400	11,400	交付税借入▲11000期日10500
週 間 合 計	▲ 9,400	23,300	13,900	—	400	8,300	8,700	22,600	

4/20は日銀予想、4/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、申告所得税の期日が5月に延長されたこともあり、資金需給上の大幅な過不足日はないと見込まれる。無担保コールO/Nは、積み期間の序盤であることから、引き続き横ばい圏から若干の上昇での推移が予想される。レポ市場は、GC T/Nは引き続き積み期序盤であることから投資家の調達も入ることが想定され、レートは安定的に▲0.10%前後の出合いになることが予想される。短国市場は、24日に3M物の入札が実施予定となっている。発行額が57,400億円と前回から増加することもあり、レート水準を含め、市場動向が注目される。CP市場は、24日にCP等買入オペが4,000億円予定されている。14日のオペでディーラーの強い売却ニーズが示されたこともあり、14日以上に増額されるかどうか注目したい。

主要なイベントとしては、国内では24日に3月の全国消費者物価指数、海外では22日に3月の英消費者物価指数が公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入